

今後の山部会の活動方針（第5回全体会議資料）

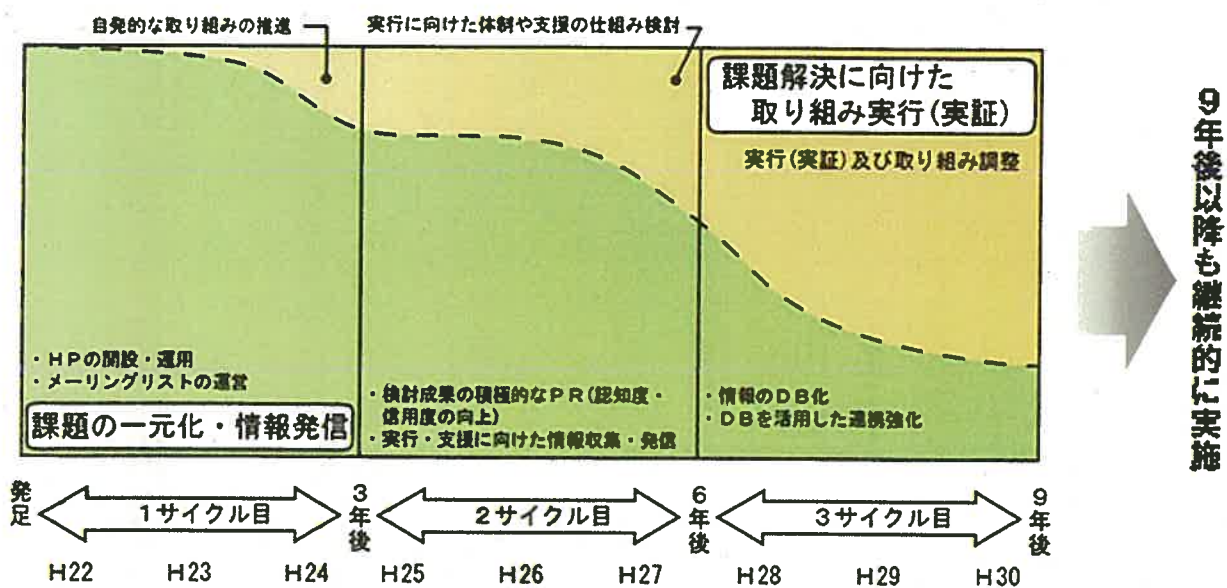
1. 懇談会の目的と運営方針について

1.1 懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

1.2 懇談会の運営方針

- 懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営
- 来年度からは、3サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行(実証)」へシフト



2. 山部会の今後の3ヶ年の目標

活動にあたっては、調和のとれた矢作川流域圏の実現に向け、学識者、関係団体、関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題の解決に取り組むこととする。

今年度の活動における課題や意見から、今後3ヶ年の目標を以下とする。

- WGの中で山村再生担い手づくり事例集について、よりPR力のあるものにする
- 山村ミーティングや木づかいガイドライン等とWGの中で山村再生担い手づくり事例集によって築かれた人間関係を連携させて、流域が関わるイベントを実施する
- WGの中で森づくりガイドラインについて、矢作川や水源かん養機能に配慮した森づくりの理念と具体的な方策を発信する
- WGの中で木づかいガイドラインの策定を行い、流域における水平展開を山部会構成メンバーで実行する

3. テーマ別の活動目標

3.1 山村再生担い手づくり事例集

森林の適切な管理は山村再生が重要。まずは人づくりに取り組む。

- H25～H27までの3ヶ年の成果をホームページ掲載するとともに、PR力のある山村再生担い手づくり事例集とする。これまでに、取材で構築された人間関係を活用したイベントの開催を計画する
- イベントの実施(山村ミーティング、木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携)
- 9年間の総括(イベントの10年目以降の継続の検討)

3.2 山村ミーティング

山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。

- 新たなイベントの計画、試行
- イベントの実施(山村再生担い手づくり事例集、木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携)
- 9年間の総括(イベントの10年目以降の継続の検討)

3.3 森づくりガイドライン

流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。

- 岡崎市、豊田市における森づくりの動きについて、WGとして把握し、情報共有と意見交換を行う。
- 岡崎市と豊田市で、共通理解となった水源かん養機能や矢作川に配慮した森づくりの理念と具体的な方策をとりまとめる
- 9年間の総括(矢作川流域圏として、統一性のある森づくりガイドラインの発信)

3.4 木づかいガイドライン

矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。

- 木づかいライブ・スギダラキャラバンの活動を継続するとともに、実績を整理する。
- 木づかいを推進した安城市、豊田市、岡崎市、恵那市等の実績をパッケージ化(=矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインの作成)する。
- 9年間の総括(パッケージを流域の市町村に水平展開する)